

スプレーギクの秋植え栽培および無加温ハウスでの年末出し電照栽培

川村 藤夫・谿 英則

湖北地域におけるスプレーギクの作型開発を図るため、夏秋型品種の秋植え栽培、無加温ハウスでの秋型品種の年末出し電照栽培の可能性を湖南地域と比較検討した。

1. 方 法

1) 夏秋型品種の秋植え栽培

1992年10月20日および11月10日、夏秋型品種を湖北分場内露地は場に定植した。翌春、冬至芽を株当たり1本とし、摘心（4月16日）後3本に仕立てた。園芸分場では1991年11月18日および1992年4月2日に定植を行い、秋植えは冬至芽、春植えは摘心（4月14日）によって、株当たり3本立とした。

2) 無加温ハウスでの秋型品種の年末出し電照栽培

1993年、湖北分場内ビニルハウスで、表1に示す作型で栽培した。電照は22時から4時間の光中断とし、定植後40日間行った。園芸分場では1992年8月28日に定植、10月3日に消灯した。

2. 結果および考察

1) 夏秋型品種の秋植え栽培

(1) 試験期間中の積雪状況は、最深積雪17cm、降雪日数36日、積雪日数45日、根雪期間9日（2月23日～3月4日）と、平年に比べ少雪年であった。

(2) 夏秋型スプレーギクの品種には、小ギクに比べ越冬率が低下する傾向がみられたが、過

表1 試験区の構成（月、日）

作 型	定 植	摘 心	電 照 の 消 灯
I	8.11	8.20	9.21
II	8.20	8.30	9.30
III	8.30	9.10	10.10

表2 定植時期の早晚と越冬率（湖北分場 1993）

品種名	10月20日定植		11月10日定植	
	越冬率%	冬至芽本/株	越冬率%	冬至芽本/株
アイチャーム	100	2.9	90	1.3
ウエルカム	100	1.7	90	1.0
ミチル	100	2.8	100	1.6
チロル	80	1.8	90	1.6
ファンタジー	100	2.9	90	1.1
モンブラン	100	3.0	90	1.4
リップブル	60	3.0	80	3.0
かすみ	100	5.6	90	2.7

* 1993年4月16日の冬至芽発生本数 ** 小ギク品種

表3 秋植え栽培と春植え栽培の比較（湖北分場 1993、園芸分場 1992）

品種名	湖南・秋植え栽培			湖南・春植え栽培			湖北・秋植え栽培		
	開花日 月、日	切花長 cm	切花重 g	開花日 月、日	切花長 cm	切花重 g	開花日 月、日	切花長 cm	切花重 g
アイチャーム	7.6	87	103	7.11	68	43	7.6	56	60
ウエルカム	7.9	93	118	7.14	82	49	7.15	64	66
ミチル	7.13	89	127	7.26	82	70	7.23	74	78
チロル	7.7	78	135	7.11	50	43	7.16	40	60
ファンタジー	7.20	95	103	7.29	85	64	7.23	75	68
モンブラン	7.7	94	134	7.13	78	74	7.16	74	92
リップブル	7.13	113	203	7.9	72	44	7.26	72	91

* 定植1992年10月20日

表4 電照栽培における開花日と切花形質（湖北分場 1993）

品種名	作型	開花日 月、日	切花長 cm	切花重 g	頂花の花首長 cm	消灯後の 到花日数
ドラマチック	I	11.14	91	62	0.8	54
	II	11.28	85	58	0.6	59
	III	12.17	81	55	0.5	68
	湖南	12.6	86	64	1.0*	64
ピンキー	I	11.18	108	48	4.8	58
	II	12.6	109	56	5.3	67
	III	12.24	94	47	6.3	75
	湖南	12.12	106	67	5.7*	70

* 頂花から第3花までの平均

半数の品種では90%を上回り、秋植えが可能であった。冬至芽の発生は、定植が遅くなると減少する傾向がみられ、定植時期は11月10日より10月20日が優った（表2）。

(3) 冬至芽仕立ては、摘心仕立てに比べ開花日が早く、切花長が長くなった。しかし、生育が旺盛で品質の低下が懸念されるため、摘心栽培が良いと考えられる。なお、湖北では切花長がやや短くなつたが、これは摘心の遅れに起因したと思われる（表3）。

2) 無加温ハウスでの秋型品種の年末出し電照栽培
到花日数は消灯時期が遅いと長くなつたが、各作型とも年内に開花した。切花長は作型IIIでやや短くなつたが、その他の切花形質には大差がなかった（表4）。

以上の結果、夏秋型スプレーギクは、少雪年の場合湖北でも露地で越冬させることができ、秋植え栽培が可能であった。定植時期は10月20日頃が良いが、多雪年での検討を要した。また、無加温ハウスでは電照により、年末まで切花生産が可能と考えられる。しかし、花首は概して短くなるので、花首の長い品種を用いる必要がある。